

別添106 ワンマンバスの構造要件

1. 適用範囲

この構造要件は、乗車定員11人以上23人以下の旅客自動車運送事業用自動車であって車両総重量5トンを超えるもの及び乗車定員24人以上の旅客自動車運送事業用自動車であり、かつ、車掌を乗務させないで運行することを目的としたものに適用する。

2. 用語の定義

- 2.1. 「ワンマンバス」とは、乗車定員11人以上23人以下の旅客自動車運送事業用自動車であって車両総重量5トンを超えるもの及び乗車定員24人以上の旅客自動車運送事業用自動車であり、かつ、車掌を乗務させないで運行することを目的としたものをいう。
- 2.2. 「ホイールベース」とは、最遠軸距をいう。
- 2.3. 「リヤ・オーバー・ハング」とは、最後部の車軸中心から車体後面までの部分をいう。
- 2.4. 「前扉」とは、乗降口の前縁が運転者席の座席（前後に調整できるものにあつては、中間位置に調整したもの）の前縁から奥行き方向に200mmの位置を通る鉛直面より前方にあり運転者が運転者席において直接に扉の開閉の状態を確認できる位置に備えた乗降口の扉をいう。
- 2.5. 「後扉」とは、ホイールベース間又はリヤ・オーバー・ハングの側面に備えた乗降口の扉をいう。

3. 構造要件

3.1. 乗降口扉

- 3.1.1. 前扉は、車外が見通せるように窓を備えること。
- 3.1.2. 路線を定めて定期的に運行する乗車定員30人以上のワンマンバスのホイールベース間に備える後扉にあつては、有効幅が800mm以上であること。

3.2. 乗降口の扉の開閉装置等

- 3.2.1. 乗降口の扉の開閉は、運転者が運転者席において操作できる構造（以下「自動式」という。）であること。また、後扉にあつては、扉付近に開閉の予告ブザーその他の装置を備えること。
- 3.2.2. 乗降口の扉（前扉を除く。以下3.2.2.において同じ。）を閉じた後でなければ走行装置に動力を伝達することができない構造であり、かつ、乗降口の扉の開閉状態を運転者席の運転者に表示する灯火その他の装置を備えること。

ただし、乗降口の扉を閉じた後でなければ走行装置に動力を伝達することができない構造の解除装置を備えた場合にあつては、当該解除装置が運転者席において容易に操作することのできるものでないこと。

- 3.2.3. 路線を定めて定期的に運行するワンマンバスに備える乗降口（後扉に限る。）には、旅客の挟み込みを防止する安全装置を備えること。

3.3. 扉非常開放装置

自動式の扉には、扉付近の車内外から手動で開放することができる扉非常開放装置を備えること。また、非常の際に旅客が扉を開放するための開放方法を表示すること。

3.4. 客室の安全確認装置

3.4.1. 運転者が運転者席において客室内の旅客の状況を確認することができる3.4.1.1. 又は3.4.1.2. に掲げる後写鏡を車室の前部窓上部付近に又はモニター装置を運転者席付近に備えること。

3.4.1.1. 平面鏡にあつては、有効寸法130mm以上×280mm以上とする。ただし、路線を定めて定期的に運行する乗車定員30人以上のワンマンバス以外にあつては、有効寸法約90mm以上×200mm以上とすることができる。

3.4.1.2. 凸面鏡にあつては、有効寸法155mm以上×300mm以上、曲率半径1000mm以上とする。

3.5. 後扉付近の旅客を確認する装置

3.5.1. 路線を定めて定期的に運行するワンマンバスの後扉には、後扉付近の旅客を運転者が運転者席において確認できるように、3.5.1.1. に掲げる直接確認方式の装置及び3.5.1.2. に掲げる間接確認方式の装置を備えること。

3.5.1.1. 直接確認方式の装置

3.5.1.1.1. 前部左窓上部付近の車室に後写鏡(有効寸法130mm以上×280mm以上の平面鏡)を、後扉上部の車室に後写鏡(有効寸法約280mmφ、曲率半径1000mm以上の凸面鏡)をそれぞれ備えること。また、後写鏡に代えて後扉付近の旅客を確認することができるモニター装置を運転者席付近に備えることができる。

3.5.1.1.2. 乗降口(後扉に限る。)の天井に、20W(乗車定員29人以下のワンマンバスにあつては10W)以上の蛍光灯又はこれと同等以上の明るさの灯火を備えること。

3.5.1.2. 間接確認方式の装置

3.5.1.2.1. 乗降口(後扉に限る。)の階段(階段を有しない場合であつて、扉がスライド式(車枠若しくは車体に格納され又は車外に開放されるものに限る。)のときは、閉扉時における扉の内側から少なくとも奥行120mmにおける範囲の床面とし、扉が折り畳み式のときは、乗降口の出入口付近から扉を折り畳んだ状態における奥行方向における扉の最外縁までの範囲の床面とする。)上に旅客がいる場合において、扉が開閉できない構造であること。

3.5.1.2.2. 後扉の開閉機構は、速度が5km/hを超えた状態において作動しないこと。

3.6. 後扉付近以外の階段等付近の旅客を確認する装置

「別添92 2階建バスの構造要件」第2項に定める通路、客室を相互に連絡する通路及び乗降口から客室に至る通路に踏段又は階段(以下「階段等」という。)を有する場合にあつては、運転者席付近には、当該階段等の旅客の状況を確認するため、3.5.1.1.1. に規定する後写鏡又はモニター装置を備えること。ただし、運転者が当該階段等の状況を直接に又は3.5.1.1. の直接確認方式の装置により確認できるワンマンバスにあつてはこ

の限りでない。

3.7. 車外安全確認装置

3.7.1. 路線を定めて定期的に運行するワンマンバスには、乗降口付近及び車両の左外側線上の状況を運転者が確認できる後写鏡（有効寸法300mm以上×143mm以上、曲率半径1000mm以上の凸面鏡）又はモニター装置を備えること。

3.7.2. 路線を定めて定期的に運行するワンマンバスの乗降口（後扉に限る。）の外側上部には、開扉と同時に点灯し、閉扉後4秒以上遅延して消灯する20W（乗車定員29人以下のワンマンバスにあっては10W）以上の蛍光灯又はこれと同等以上の明るさの灯火を備えること。

3.8. 放送装置等

路線を定めて定期的に運行する乗車定員30人以上のワンマンバスには、運転者が運転者席において旅客に放送することができる装置（放送する場合にマイクロホンを手保持する必要のないものに限る。）を備えること。

3.9. 旅客降車合図用ブザー等

路線を定めて定期的に運行するワンマンバスの客室には、旅客が降車する際に容易にその旨を運転者に通報するための降車合図用ブザー又は単打ベルを備え、その押しボタンを旅客の手近な位置に備えること。

3.10. 後輪巻込防止装置

ホイールベース間に乗降口を備える場合には、後輪巻込防止装置を備えること。この場合において、空車状態における後輪巻込防止装置の下縁の取付高さが地上300mm以下となるように取り付けられていること。